

# 平成30年度 第3回大野市国民健康保険運営協議会 会議録概要

と き：平成30年11月1日（木）午後7時～8時15分  
ところ：結とびあ 202号

- 【出席委員】 金森会長、梅林副会長、松浦委員、足利委員、水本委員、宗信委員、堀委員、酒井委員、竹本委員（9名）  
【欠席委員】 廣瀬委員、武村委員、松田委員（3名）  
【市側出席者】 坂井民生環境部長  
（事務局） <市民生活課> 笠松市民生活課長  
（保険年金グループ） 中山課長補佐、森永企画主査、高崎企画主査

## 1. 開会

## 2. あいさつ

- ・会長あいさつ

## 3. 会議録署名委員の選任

- －被保険者を代表する委員と保険医又は保険薬剤師を代表する委員－  
松浦 康夫 委員          堀 周平 委員

## 4. 議題

### （1）平成31年度大野市国民健康保険税（率）の改定について（資料1～2）

#### 【事務局説明後、質疑応答】

委員          改定は、毎年するのか。

事務局          制度改正による財政への影響などが不透明であるが、今後1・2年については現行税率で国保財政の均衡が保たれると考えられることから、平成31年度については、税額総額は変えずに資産割だけを下げることにはさせていただきたい。ただ来年度に、30年度の決算をしてみた結果、医療費の動向により、国保財政の赤字が見込まれた場合は、今度、実質的な値上げをしていかないといけないということもあるかも知れない。その場合、資産割を廃止する目途を、延伸する必要もある。

異議なし          －全会一致で承認－

－審議終了－

### （2）国保データベース（KDB）のデータ分析について（資料3～4）

#### 【事務局説明後、質疑応答】

委員 このデータにより、医療費を減らすとか健康寿命を延ばすなどの分析結果があるのか。例えば、脳卒中が多い、特に女性については、精神疾患が多いのはなぜなのか。どうしてこのような特徴的なことがあるのか。どうすれば、それを軽減できると考えているのか。

事務局 脳梗塞が多いというのは、脳血管疾患で、傾向としては、大野市と勝山市の両方で言えることだが、気温差、特に浴室と浴外の温度差が原因であると言われている。温度差を無くす方法を考えるとよいのではないか。また、漬物にさらに醤油をかけるなど、塩分摂取が多く、高血圧にもつながっている。保健師が塩分調整などの指導をすることにより、糖尿病にも良い結果が出て、医療費削減にもつながるという指導もいただいている。

女性の方が、精神疾患が多い結果となっているが、これは、精神疾患の中には認知症も含まれていることから、平均寿命の長い女性に精神疾患が多いという結果になっているものである。また、自宅で見るより施設、入院するというような傾向が多いため、入院費が高くなってくる。

委員 特定健診について、受ける人は毎年受けるけれども、受けない人は全く受けないというようなことをよく聞くが、そのような方への対処というのは、何か考えがあるのか。

事務局 未受診者に対して、市としてもこれまで様々な方法で勧奨の通知を出していたが、今年度は、受診率向上に向けて専門業者に受診勧奨を委託した。受診勧奨に特化した業者と契約し、勧奨通知を出した結果、現段階で去年と比べて受診者は160人増えている。ただ、その中で、未受診者がどれだけの方受けているかというのは、3月末までの健診が全て終わり、データ分析しないと不明である。分析結果により、次年度以降、未受診者への更に効果的な勧奨方法などについて、業者と検討しながら進めていきたい。

委員 受診勧奨業者に委託となると費用が掛かるのではないのか。

事務局 費用に関しては、国の100%補助事業で、補助限度額内で契約できている。

## 5 その他

事務局 次回の国保運営協議会の今後の日程について、2月頃に開催

梅林副会長 閉会のあいさつ